

## 地震本部のデータについて

地震本部が保有する様々なデータが、工学分野を中心とした研究者や技術者に活用されるよう、データを収集・公開するために、以下の点について整理が必要である。

- 1 . データ公開ポータルサイトについて ( 案 )
- 2 . データ公開の現状
- 3 . データの収集・公開方法について
- 4 . データそのものを充実させる上での課題

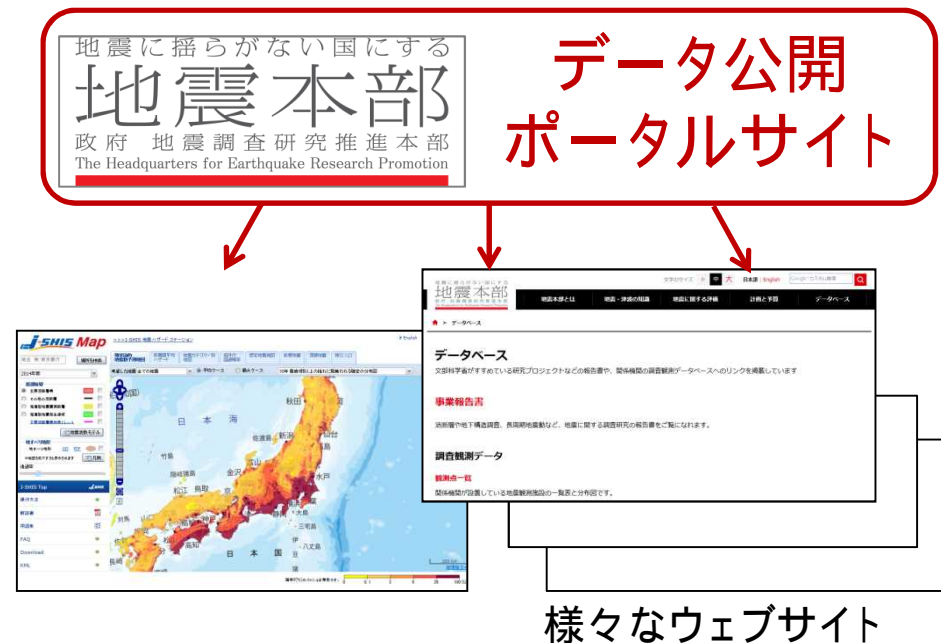
# 1 . データ公開ポータルサイトについて ( 案 )

既存のウェブサイトで、多くのデータが公開されている。こうしたウェブサイトへのリンクを集め、地震本部HPにデータ公開ポータルサイトを作成する。

既存のウェブサイトの例：

- ・地震調査研究推進本部 データベース ( 事業報告書等 )
- ・防災科学技術研究所 地震ハザードステーション ( J-SHIS )
- ・産業技術総合研究所 活断層データベース

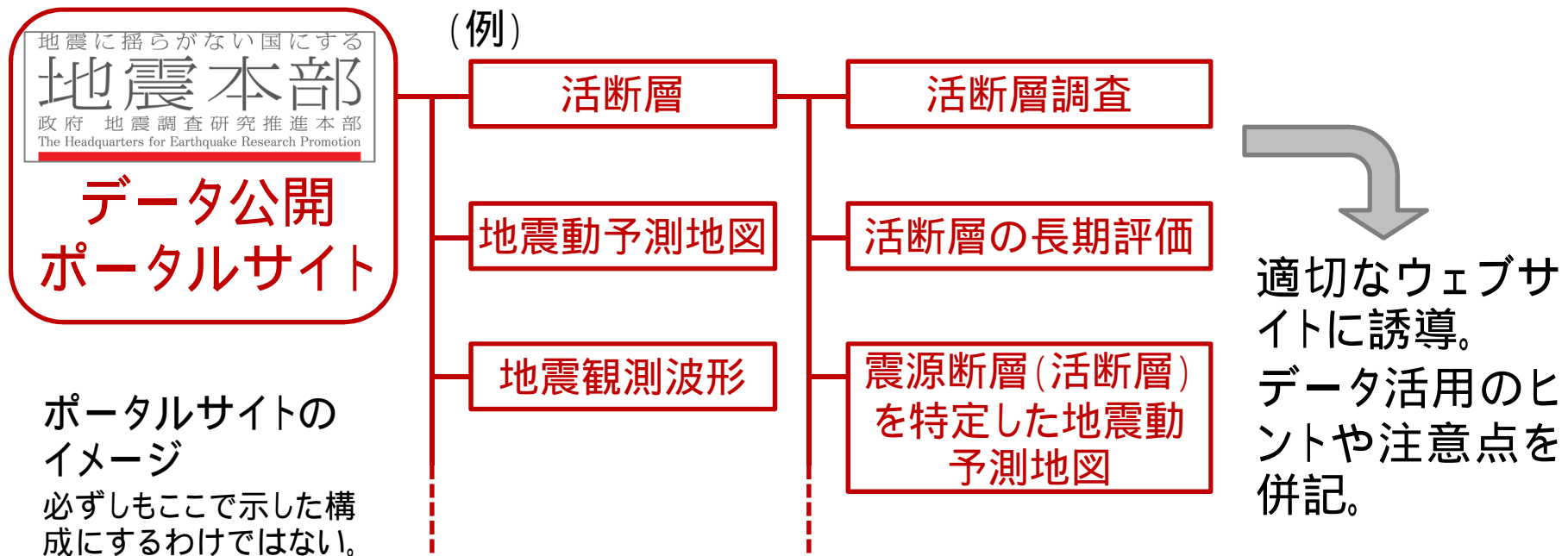
地震に関するデータを利用したい人は、まず地震本部HPにアクセスすれば、欲しいデータにアクセスできる。



# 1 . データ公開ポータルサイトについて（案）（続き）

ポータルサイトでは、データを活用したい閲覧者を、適切なウェブサイトへ誘導できるように工夫を行う（ウェブディレクトリを基本に、使いやすさを検討する。）。

また、必要に応じて、データ活用のヒントや注意点等の分かりやすい説明を掲載する。とくに、データが誤った（意図しない）用途で使われることのないように配慮する。



## 2 . データ公開の現状

例えば、地震動予測地図（強震動予測）については、以下のデータが地震ハザードステーション（J-SHIS）で公開されている。

- ・地図データ
- ・ハザードカーブ（地震郡等ごとに工学的基盤で最大速度がある値以上となる確率）
- ・表層地盤増幅率（AVS30等）
- ・深部地盤モデル（基盤面の深さ等）
- ・太平洋プレート、フィリピン海プレートの形状
- ・断層矩形データ
- ・震源断層を特定した地震動予測地図における工学的基盤地震動の速度時刻歴（速度波形データ）  
等

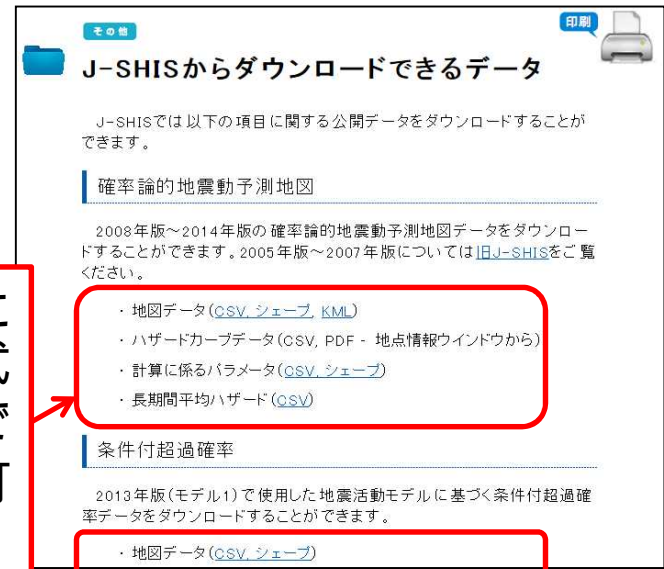
## 2. J-SHISについて

地震ハザードステーション (J-SHIS) <http://www.j-shis.bosai.go.jp/>  
(国立研究開発法人防災科学技術研究所が管理・運用)



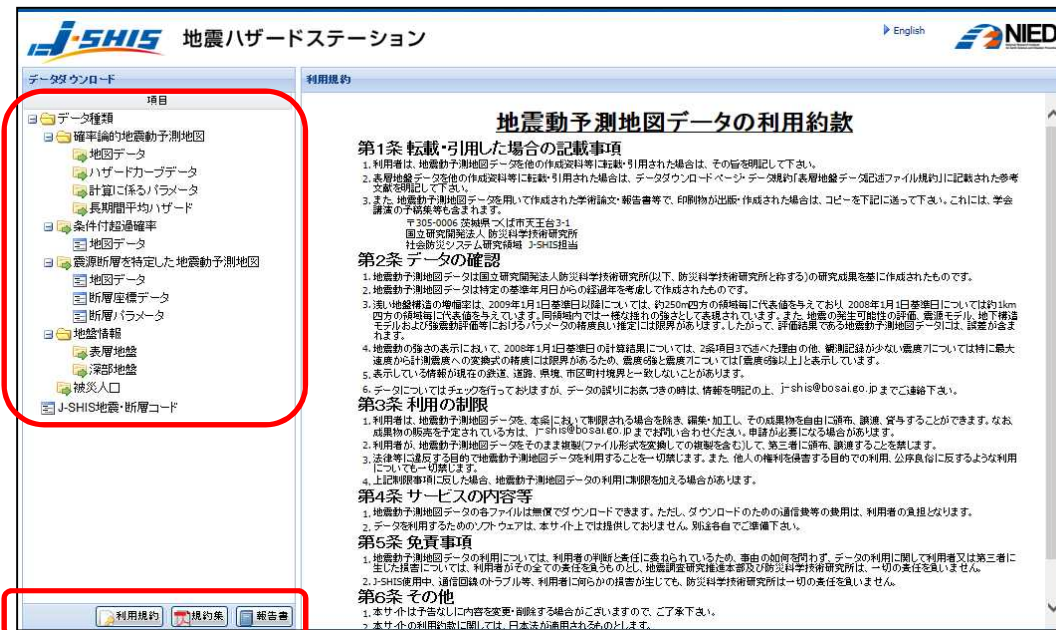
メニューバーの「ダウンロード」を選択

データの種類によって、CSV形式やKML形式等でダウンロード可能



必要なデータを選択

データ規約等を掲載



## 2 . J-SHISについて ( 続き )

データフォーマットや圧縮形式を指定してダウンロード可能

地図にて震源層を選択

規約集でデータフォーマットや利用に当たっての注意事項を詳述。

表 3-2 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%10-11c	250m メッシュコード
02	BV	%. 5f	詳細法工学的基盤における最大速度 (cm/s)
03	BI	%. 5f	詳細法工学的基盤における計測震度
04	EB	%. 5f	詳細法工学的基盤の S 波速度 (m/s)
05	AMP	%. 5f	震度増分
06	SI	%. 5f	地表における計測震度

表 3-3 データ記述例

データ記述例	説明
# DATA	データブロック
# CODE, BV, BI, EB, AMP, SI	
6443572411N, 2. 22587, 600. 00000, 3. 22496, -0. 06017, 3. 16479	
6443572412N, 2. 22587, 600. 00000, 3. 22496, -0. 06017, 3. 16479	
6443572413N, 2. 22587, 600. 00000, 3. 22496, -0. 06017, 3. 16479	
(以下省略)	

## 2 . データ公開の現状 ( 続き )

同様に、長周期地震動予測地図 ( 試作版 ) においても、以下のデータが地震本部HPにて公開されている。

- ・全国1次地下構造モデル ( 計23層の上面深度 )
- ・県庁所在地等の理論速度波形、理論速度応答スペクトル
- ・地図データ

そのほか事業報告書として、活断層調査結果等が地震本部HPに公開されている。

The screenshot shows the website's navigation menu with 'データベース' (Database) selected. The breadcrumb trail is: 地震に関する評価 > 地震動予測地図 > 長周期地震動予測地図 > 「長周期地震動予測地図」2012年試作版 データダウンロード. The main heading is 「長周期地震動予測地図」2012年試作版 データダウンロード. Below it, a paragraph states: 代表地点における長周期地震動の速度波形データや速度応答スペクトルデータ、地下構造モデルデータ、各予測地図画像をダウンロードすることができます。 The page lists two data items: 1. 南海地震 (昭和型) - 速度波形 (2,371 KB) with a note that it is in zip format and includes data for prefectural and other locations. 2. 速度応答スペクトル (27 KB) with a note that it is in zip format and includes data for prefectural and other locations.

長周期地震動予測地図 ( 試作版 ) データ  
ダウンロードページ

The screenshot shows the website's navigation menu with 'データベース' (Database) selected. The breadcrumb trail is: データベース > 事業報告書. The main heading is 事業報告書. Below it, there are three report entries: 1. 別府 - 万年山断層帯 (大分平野 - 由布院断層帯東部) における重点的な調査観測 (平成26年度) - A report from the Ministry of Science, Education and Culture regarding a survey on the Beppu-Mannan Mountain Fault Zone. 2. 海域における断層情報総合評価プロジェクト (平成25～26年度) - A project for comprehensive evaluation of fault information in the sea area. 3. 立川断層帯における重点的な調査観測 (平成24～26年度) - A report on a survey of the Tachikawa Fault Zone.

事業報告書

### 3 . データの収集・公開方法について

地震本部のデータについて、ユーザーは何を求めているのかを明らかにする必要がある。

データやその活用方策の認知度向上

(A)より目に触れやすくする（例：J-SHISの認知を上げる）。

(B)データの利点や欠点、データ活用のヒントを分かりやすく示す。

データそのものの充実

(C)ダウンロードし利用しやすい形で公開する。

(D)より多くのデータを収集、公開する。

これら全てについて対応可能なわけではないが、可能な範囲で実施する。より多くのユーザーを獲得するため、優先順位を決めて実施する必要がある。

まず(A)及び(B)を解決するためにポータルサイトを開設



## 4 . データそのものを充実させる上での課題

データそのものを充実させるに当たっては、以下の問題が存在する。

- (イ) データによっては、収集・公開に経費と時間をかけるほどのニーズがあるのか疑問なものがある。  
ニーズの高いものから優先的に収集し公開する必要がある。
- (ロ) 公開や利用に制約のあるデータも存在する。地震本部での検討等に使用しているデータの全てを公開できるわけではない。
- (ハ) 収集したデータを管理し公開するシステムが必要である。  
また、そのための仕組みを継続的に維持しなければならない。